

これからの家族・家庭

— 家族全員が作る家庭をめざして —

専業主婦

家事労働の合理化や少子化などにより、専業主婦のあり方が変わってきています。家庭の中で、家族の世話をするだけの主婦でなく、多様化した新しい専業主婦像が求められています。

◇◇専業主婦とは◇◇

専業主婦とは、家事・育児などに専念する主婦であって、職業に専念する夫と対をなすものです。

男は仕事一筋、女は家事や育児という、良妻賢母型が長年続きました。現在でも、いわゆる団塊の世代より上の世代は俗に働きバチとか、モーレッツ社員とか呼ばれ、その傾向が強いといわれています。しかし、昭和五十九年には十五歳以上の女性のうち、雇用労働者が家事専業者をわずかではありませんが上回りました。これは戦後初めてのことです。時代は変わってきました。

一口に「専業主婦」といってもさまざまです。兼業主婦との大きな相違は、家にいる時間の差と拘束されていない自由です。自由時間の過ごし方によって、「趣味・スポーツグループ」「学習グループ」「婦人会などの地域活動グループ」「ボ

ランティア活動などのグループ」に大別できます。又、子供が小さいから家にいるパート予備軍も多い。家にいて、習いごとや好きなことを楽しんでいる恵まれた少数派。子供に手が離れると、PTA活動、地域活動、ボランティア活動へと広がっていく人も。今盛んに各市町村などで行なわれている婦人講座に参加して、自主グループへ発展する知性派タイプも最近は多くなっています。

しかし、これらも夫の健康に気づかないながら、子供の病気の看護、老親の世話や近所、親戚づきあいが重なると、自分の時間を見失ないがちになります。

◇◇専業主婦の自立は◇◇

各地で開かれている講演会などで講師の先生がたは、人生八十年設計を盛んに説いておられます。未っ子の就学する三十代中ごろからの四十年をいかに生きるかです。専業主婦の場合は、何よりも、



夫や子供に依存している生き方から解放されてこそ、本当の自立といえるのではないのでしょうか。自立には、経済的、社会的、精神的自立があります。精神的自立とは、夫、子供から自立して、人間として生きることです。○○さんの妻や夫人ではなく、△△君のお母さんでもない。姓名でのおつきあいができる人間関係が理想です。専業主婦の多くは経済的自立を確立していませんが、婦人学級・ボランティア活動などへの参加は、専業主婦に社会への目を開かせる糧となるでしょう。

◇◇生きがいを見つけよう◇◇

夫が会社人間になり、子供も自分の世界を持つころ、「専業」する対象がなくなり、自分の存在感に疑問を持ち、もっと人間らしい生き方を模索する、いわゆる「妻たちの思秋期」に陥らないため、他人にたよらず、人生を生きたいけるよう生きがいを見つけ、自分自身を向上させよう。そして、家族がお互いの立場を尊重し、自分たちの、自分たちによる家庭を築こう。隣りの芝生は、いつでも隣りの芝生であり続けるのだから！

(編集員 田口和子)

共働き核家族

夫婦が共に勤めに出ている核家族の〇さん宅を訪れてみました。夫はサラリーマン37歳、妻は店員36歳、長女中学一年、次女小学校三年、長男三才という五人家族です。

◇◇朝のあわただしさの中で◇◇

夫は朝刊を取り、牛乳を取りこみ、自分のワイシャツ、ハンカチ、ズボンにアイロンをかける。妻は三歳児の様子を横目で見ながら、朝食の仕度をする。夫と長女のお弁当を作り、家族全員で朝食。妻が洗濯機を回している間に、夫や子供たちは家の中を簡単に片づける。近くに妻の実家があり、祖母が孫の世話をしてくれるので、勤めに行く途中三才児を実家に預ける妻。

◇◇職場では◇◇

妻は出勤時間が九時。店の清掃から商品の取り扱い、客の応対にまで気を使って一日を過ごす。しかし、気軽な性格で明るい。時おり、店に親子連れが来ると我が子を出す。

◇◇夕方から◇◇

妻の実家では、小学校から帰った次女と三才児が両親のどちらから

の帰りを待っている。朝、夫婦の帰宅時間を確かめあい、帰りの早い者が実家へ。

朝と同じくあわただしい夕方。

先に帰った方が夕食やお弁当の材料を買い求め、ごはんを作る。メニューは、あらかじめ決めておく。子供たちは、風呂洗い等も手伝う。家族そろっての夕食は、ほととすの一日の締めくくり。一日のことを話し、その日の幸せ(特に健康)をかみ締める。

◇◇共同して家事を◇◇

共働きであり、また核家族という家庭が増えていきます。保育園や実家に子供たちを預けながら、共働きをする核家族。家事・育児を妻の仕事、夫の仕事と明確に分けず、家族全員が共同して行う核家族。そのためには、夫婦が互いに相手の立場を考え、感謝し、よく話し合いをしていく必要があるでしょう。

(編集員 宮村清子)



三世代同居家族

わが国の人口構成は急速に高齢化しています。高齢者人口を男女別にみると、女性が圧倒的に多く二十一世紀はおばあさんの世紀だといわれるほどです。

◇◇お年寄りは同居志向◇◇

日本のお年寄りは、欧米では別居交流型が多いのに対して、「老後は子どもや孫といっしょに生活できる方がいい。」と家族同居志向が強いという特徴があります。

父親と母親は勤め、朝家を出て夕方帰宅。おじいさんは庭いじりや老人クラブの活動に一生懸命。おばあさんは母親といっしょに食事の支度、掃除、洗濯、余暇には趣味を楽しむ。子供は両親と祖母に温かく見守られてすくすく育つ。そして、孫をヒザに一家団らの夕食を囲む。我が国では、こういう家庭がお年寄りに最もよいという意識が強いと思います。

◇◇役割を分担しよう◇◇

しかし、このような幸せな三世代同居家族がどのくらいあるでしょう。世代の異なる家族が理解し合えば、家族としての絆も深くなりますが、一歩まちがえば精神的葛藤も生じやすいのです。又、

若い妻が専業主婦である場合は、家事の省力化によりメリットよりも一家に二人の主婦がいることから生じる精神的デメリットの方が大きいこともあると思います。幸せな三世代同居には、お互いが精神的にも、経済的にも、社会的にも自立的でなければなりません。それとともに、家族がそれぞれ家族内における役割を分担し、だれもが家族の一員であるという意識を持つことが必要でしょう。

◇◇これからの三世代同居家族◇◇

最近の三世代同居家族の形態は今までの生活のすべてを同じにする型から、家計や食事についてもそれぞれの家族や家庭の状況に応じた最も望ましい型を選択するなど多様化しています。

これからは、各家族は自分たち家族に合った型を自分たちで作っていかねければならないと思います。

(編集員 加藤美百合)

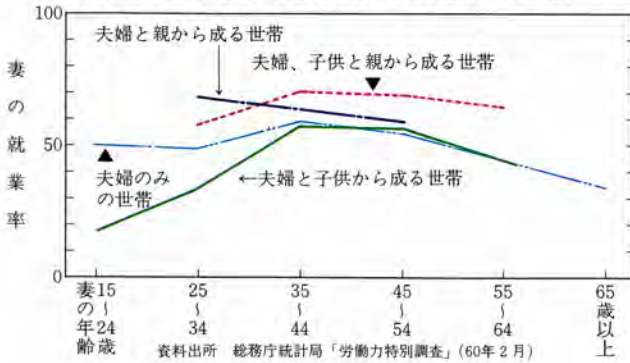


婦人の就労と 家族・家庭

就労と家事の間で

婦人の就労は、家族・家庭の状況に大きく左右されます。働く意欲を持っていても、育児に追われ、介護を必要とする老人をかね、あるいは、夫の反対により、就労を断念する婦人。又、母親に育児を頼んだり、夫婦で共同して家事を行いながら就労する婦人などさまざまですが、多くの婦人は就労と家事の間で苦しみ、悩み、揺れ

夫が就業者の場合の妻の就業率(典型的一般世帯)



動いています。

増加する女子雇用者

そうした中で、家事や育児負担の軽減、婦人の就労に対する意識変化などにより、女子雇用者は増え続け、総務庁の「労働力調査」によれば、昭和59年に一五八万人と家事従事者を二万人うまわりました。特に、パートタイム労働者の増加は著しく、昭和六十年に短時間雇用者数は三三三万人となり、これは女子雇用者全体の二二%を占めています。パートタイム労働者が増える要因を婦人の側からみると、家庭主婦層を中心とした就業希望者が、家計の補助等経済的動機の他家事・育児との両立が容易であることが大きいです。

新しい兼業主婦

多くの婦人にとって、就労と家族、家庭の兼ね合いをどう保っていくか大きな問題となっています。その大きな理由が、妻だけに家事が割りあてられる役割分業意識にあるのは明らかです。最近、「男は仕事、女は家庭」という意識は少しずつ変わり、家事も夫婦共同で行う家庭も増えていきます。これからは、働く者どうしが作る新しい家族、家庭や兼業主婦としての働く妻のあり方が求められると思います。

婦人のための静岡県計画

主婦の就労は本人とその家族の話し合いで決められるべきですが、一方では社会全体で考えるべき問題も含んでおります。又、婦人問題そのものの解決なくして、婦人の就労だけ解決できるものではありません。

県は、この三月今後十年間の婦人問題解決の指針となる「婦人のための静岡県計画」を策定しました。この計画について、本誌第八号で基本構想を掲載しましたので、ここでは基本計画の概要について掲載します。

報 婦人のための静岡県計画 (基本計画)

I 男女平等を基本とした教育の推進

- (1) 学校教育における男女平等教育の推進
- (2) 家庭教育における男女平等教育の推進
- (3) 社会教育における男女平等教育の推進
- (4) 婦人の学習機会の拡大
- (5) 婦人問題についての啓発

II 婦人の社会参加の促進・充実

- (1) 政策決定の場への参加の促進
- (2) 市民活動への参加・充実
- (3) 国際協力の推進

III 働く婦人のための条件整備

- (1) 雇用機会における男女平等の推進
- (2) 労働条件の男女平等と向上の推進

推進

IV 母性の尊重と健康の増進

- (1) 母性の尊重と母子保健の推進
- (2) 健康の増進と地域保健の推進
- (3) 職業と家庭生活の調和を図るための条件整備の推進
- (4) 農山漁村における就労環境の整備
- (5) 家内労働・自営業の就業条件の改善

V 家庭生活の安定と福祉の向上

- (1) 家庭基盤の充実
- (2) 育児・保育環境の整備
- (3) 母子家庭等の生活の安定と福祉の向上
- (4) 高齢者の生活の安定と福祉の向上
- (5) 相談機能の充実

しじみ

先日、しじみを買った。いつも行く近くのスーパーの特売商品で、二パック〇〇〇円とあり、大量の上、なぜか新鮮さを感じ関心を持った。しかし、心は複雑であった。夫婦と男の子供二人の我が家は、あさり好みで、しじみは一度も食卓にのせたことがない。

以前は、少し足をのばせば、小川にはすくなからずしじみがいた。せせらぎの流れ、そこには静寂な世界があった。目に映るながめ。

自然界に生きる生物の姿総べてが「生きているんだ」そう物語っていた。

子供心を魅了したあの一人遊びが懐かしい。今、しじみがすむ川は、あるのだろうか。

さて、国内産のこのしじみのみそ汁を舌鼓。子供達は「うまい」と汁のみおかわり。私はうきうきしながら、どんぶり大盛り二杯分の一つ一つの身を口に運び風味した。

裾野市 神原浩子

デイタイム



老眼鏡

広げた新聞を腕いっぱいには伸ばして活字を拾う夫を横目で見ながら、二年前から使い始めた老眼鏡が、もう読み書きには手離せなくなり、私はじつくりと腰をすえて苦もなく活字を追って行く。夫52才、私48才。

「無理しないでめがね買ったら？」

「なに、まだ不自由はないよ。めがねはずして丁度いいくらいだ。」

若い頃から軽い近視の夫、辞書を引く度に虫めがねの厄介になるのに――。

本好きな割に視力の良さを誇っていた筈の私のめがね姿がショックだったのだろうか、年老いて見えるのだろうか。

否応なく素顔で向き合う時間が長くなるにつれて、古いへの、せめてもの抵抗なのだろうか。

見えにくさの苛立ちから解放される心地良さは計り知れないのに。

不便さに馴れて、文字から遠ざかる事より、読まずに居られない私にとって、積極的な「生」を約束してくれる老眼鏡は老いの象徴ではなく、余暇を彩る大切な小道具なのだから人は誰も、周囲の老いには寛大で、自分自身の若さには妙な自信を持つものらしい。自分だけとはと、つい体力以上の無理を重ねてしまう。

しのびよる老いの気配を感じ始めたら、それは優しさに包まれる時、自分の未来を拓くのもせばめるのも、自分自身の考え方一つで決まるのだから。

編集員 加藤美百合

物干し

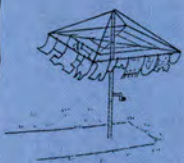
オーストラリアへ旅をした人は、傘を開いたような、物干しが目についたことと思う。蜘蛛の巣から、ヒントを得たかのような、ワイヤーの張り方である。高さの調節が出来て、干し終ると、軸に付いているハンドルを回して、邪魔にならない高さまで、上げてしまうことができる。その根元は、しっかりと地面に埋められ、コンクリートでかためられている。頑丈で機能的である。洗濯物は、そのワイヤー部分に干すことになるのだが、ベッグ（洗濯バサミ）も、ワイヤー用に工夫されているので、洗濯物が片寄ったりはしない。

物干しに限らず、家事全般に亘って、節々に、女性には考えつかないような、男性的なアイディアが、見受けられるのである。

オーストラリアでは、男の子も、女の子も、同じように、家事を手伝わされる。台所は女子だけのものではないから、当然、男性的アイディアが加わるわけである。

男子を台所から追い出した日本人は、かなり損をしたような気がする。躍進を遂げた日本なのに、欧米諸国に比べて、台所が、意外に、おそまつなのは、その辺に理由があるのかもしれない。

編集員 太田美恵子



佐野美術館は昭和四十一年十月に、故佐野隆一翁の寄付により開館しました。その開館前の八月に、唯一人の学芸員として着任され、現在、副館長の渡辺妙子さんをおたずねしました。佐野美術館は数多くの東洋の古美術品が収蔵されています。

この美術館にこられたいきさつは。

◆私は昭和三十一年、東京の高校を卒業して、一年勤めました。夜、英文タイプを習って、英文タイピストとして銀行に入りました。将来は美術館に勤めたいと思っていましたので、慶応大学の通信教育を受けました。学芸員としての資格を取るため、銀行をやめ、三、四年生の時は昼間の学生と一緒に勉強しました。三十四年から始めて、四十一年に卒業しました。そのあと、このお話がありまして、八月に三島へきました。一年間の展覧会を運営されるのに、ご苦労がおりですか？

◆一ヶ月に一度替りますので、特別展、企画展、平常展とを上手に組合わせるのは大変です。一つの企画に一年はかかりますから、仕事は厳しいですし、梱包作業に力はいりますし、照明を十ルクスにしたり、科学的知識も必要です。又お借りしました大事な作品をお返しするまで神経を使います。お仕事をするのに、何に一番心がけておられますか？

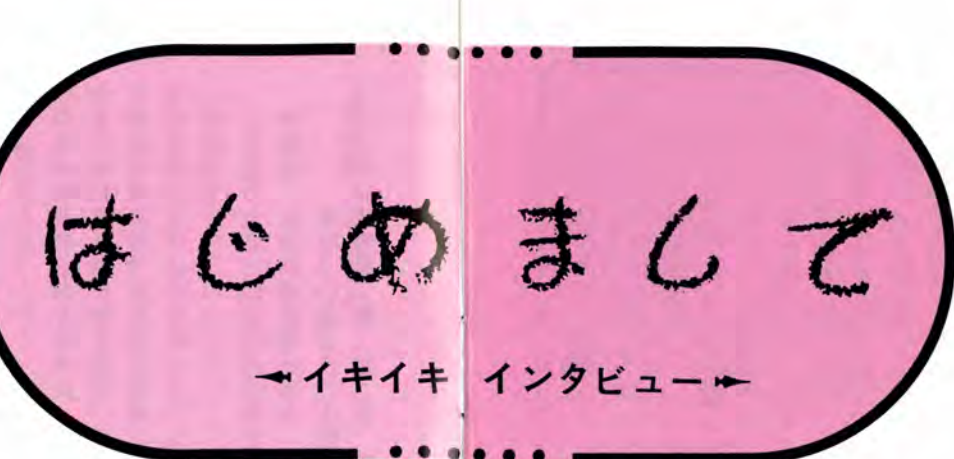
◆人間の信頼関係です。誠実な人づきあいですね。普段からの人づきあいが大切です。幅広い交遊がないとうまくいきません。日本各地に出向いて、すぐれた方々とお会いできます。まさに役得です。



渡辺 妙子
財団法人佐野美術館副館長

◆自分にあつた仕事です。好奇心が旺盛だし、チャレンジできますので、副館長の仕事としては運営にあたり、学芸部長として、展示活動にあたります。自分を磨けますし、多くの人と会えます。

◆このお仕事はご自分にあつていると思われませんか？



◆女性の能力活用モデル店となっているので、男性は、課長二人を含めて四人だけです。今まで女性は、与えられた仕事だけやってきましたが、この店では、自分達で何とかしなければいけないと考えるようになりました。例えば、五月の開店二十周年記念として、ファッションショーを自分達で企画し、自分達がモデルになって実行し成功させました。女性も仕事を全面的に任せればみんな一生懸命やってくれます。



岩橋 秀子
ユニ(株)磐田駅前店店長

◆私達の業界は、ファッション性が強く、女性の感覚、センスが重視されています。又、お客様には女性が多いので、お客様が何を希望しているかは、女性のほうがわかりやすいし、接客面における女性らしいきめの細かいサービス等、女性が活躍できる場が多いと思います。我が社では、男女同一賃金で、登用もまったく同一条件となっています。

◆店長の仕事は大変だと思いますが、どのような仕事をされていますか？
◆店に関することは、営業から人事管理まで全部です。対外的には、商店街の方々と商工会議所等との会合などがあります。時間を見つけては、店頭販売やレジも行います。私は店長になる前、この店で一年間副店長を勤めましたので、その経験が役立っています。又、会社も初めての女性店長ということで、全面的にバックアップしてくれま

美術館の役目は。

◆一つは保存すること。それと、一般の人に展示して普及活動することです。学芸員の仕事は白紙からの創作活動ではないのですが、展覧会を創作する意味では創作です。その点、男性より女性が向いていると思います。交遊関係も広くなくてはいけませんし、守るだけの美術館なら女性が向いています。独自の活動がある美術館は男性の方がいいです。ここは活動もしています。学芸員として、エキスパートになるのには、毎日毎日努力して十年はかかります。

◆どのような美術館にされたいですか？

◆一日の入場者数が千人を上回ると、窮屈なので、ゆつくりとくつろげないのです。経営面のこともあるので、五百人位で、しっかりと、ゆったりとした美術館であって欲しい。心が安まる、きめの細かい展示をしていきたいです。

とても聡明な方で、ご自分の人生を自分自身で切り拓くタイプのようにお見受けしました。一時間あまりでしたが、あふれる豊かさとおたたくさが伝わりました。自らが描かれる人生模様のすばらしさに感激しました。

インタビュー アー 田口和子

名称 財団法人 佐野美術館
所在地 三島市中田町十一四三

では、これから女性の管理職は増えると思いますか？

◆我が社では、六等級の試験に合格すると管理職又は専門職になりますが、女性はほとんど専門職で管理職はまだ少ないのが実情です。しかし、これからは女性の管理職もだんだん増えると思います。

若い女性に望むことは。

◆若い女性には数年勤めたら結婚等で退職するつもりの方がまだ多いようですが、途中退職しないで、できるだけ続けてほしい。仕事では失敗を恐れずにチャレンジする精神を持ってほしい。又、自分に与えられた仕事ができるようなものであっても、やり方を工夫することによって仕事のおもしろ味を探ることができないのではないのでしょうか。そうすれば、仕事に対する姿勢、取り組みが違ってくると思います。

店内でお客様に「いらっしゃいませ」と挨拶を交わしながら、店内の様子に気を配られている岩橋さん。店長として従業員との対話を心がけておられる岩橋さん。こうした岩橋さんに女性としての優しさと同時に店長としての責任感が感じられました。

インタビュー アー 宮村清子

名称 ユニ(株)磐田駅前店
所在地 磐田市中泉三九九一六